

佐 賀 県

地域共生ステーション(ぬくもいホーム)開設等支援事業〔佐賀県〕

目的

子どもから高齢者まで年齢を問わず、また、障害の有無に関わらず、誰もが自然に集い、住み慣れた地域の中で安心して生活していくことができるよう、様々な福祉サービスを、地域住民やCSO（市民社会組織）、ボランティア等が協働し、支援していく地域の拠点を整備する。

※利用者・・・ぬくもいホーム：どなたでも（高齢者・障害者・子ども）

運営主体

非営利法人（NPO法人、社会福祉法人、公益法人等）、市町及び市町が適当と認める団体

事業内容

①地域共生ステーション推進事業

- ・民家を改修するなど、地域共生ステーション「ぬくもいホーム」の開設に必要な経費への補助

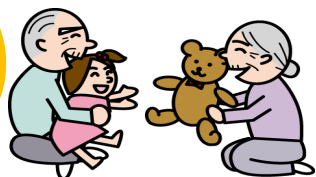
②地域共生ステーション開設支援アドバイザー事業（委託事業）

- ・開設に関する指導、助言・地域共生ステーション従事者や経営者への研修

目標

地域共生ステーションが整備された小学校区の割合の増加（2019年現在：63.6%）

対象者を限定しないサービスを提供する場



誰もが気軽に利用できる地域交流の場



様々な情報提供や相談の窓口



さがデザイン

さがをかえる しくみを考える

1 県内10町の概要

人口	139,555	人
保護率	5.62	%

2 支援状況調査 (令和元年度上半期)

新規相談受付件数人口10万人当(件)	一月当たり	13.1
プラン作成件数人口10万人当(件)	一月当たり	4.8
就労準備支援対象者数人口10万人当(件)		1.4
就労準備支援利用者数		
就労・増収率(%)	一月当たり	32.1%

3 実施方法について

実施方法	委託（平成28年度より受託、平成29年度より被保護者と一体的実施）※単年度契約、プロポーザルあり。
事業費	14,825千円（令和元年度）
理由（委託）	○本事業の目的及び対象者は(公社)佐賀県社会福祉士会の公益目的事業に合致しており、職能団体としての機能が発揮できる。 ○対象者の状況や背景を的確に捉え、家族や関係機関との連携等に社会福祉士の高い専門性と経験を活かしていくことができる。
事業概要	○就労準備支援員3名配置（専従） ○積極的アウトリーチ（訪問支援）を基本とし、対象者が通所しやすい各町の公共施設を利用している。 ○対象者個人の能力や状態に応じたプログラムを組み立て、個別支援を行っている。 ○キャリアインサイト（職業興味検査）やGATB（一般職業適性検査）、性格検査や作業検査（プラグ・タップ組み立てや重さ計測）等アセスメントツールを取り入れている。ツールを通して、対象者が自分の長所、短所を知り、自己理解を深めることができている。
その他特記事項	○ひきこもりや障害にアプローチできる訪問支援や調整、介入等の地域支援を含んだ技術をもつ社会福祉士が従事している。 ○短期プログラムを導入することで自立相談支援機関と役割分担を行い、早期就労を目指す体制づくりに取り組んでいる。

4 事業実績（令和元年度上半期）

	利用者	就労者	職業訓練	障害福祉サービス等へのつなぎ	支援終了
生活困窮者	21人	4人	2人	1人	7人
被保護者	7人	5人	0人	2人	4人

5 事業実施のポイント

【Point】

- プラン作成の事前協議や進捗状況を随時報告し、報告と役割分担を随時行うなど自立相談支援機関と連携を図っている。
- また、自立相談支援機関との連携、協働で就労体験の受け入れ先、業務内容や業務の切り分けに関する相談など企業開拓と開拓先とのマッチングを行っている。
- 対象者の居住地域（自宅訪問や公共施設等）へ訪問支援（アウトリーチ）を行い、個別対応を行っている。

【作業検査】



【模擬面接】



【就労体験】



6 取り組んで良かったこと

- 自立相談支援機関との一体的な事業運用によって着実に就労準備支援につながる対象者が増えてきている。
- 開拓等の活動やフォローアップを含めた丁寧な支援を行うことで就労への定着も安定してきている。

住民ボランティアサポートによる「介護予防」と「買い物支援」の通いの場

ごましお健康くらぶ

(五町田 久間 塩田 大草野)



佐賀県 嬉野市

目的： 買い物弱者の救済と引き籠りによる心身機能の低下を防ぐ！！

背景： 人口26,000人の小さな市だけど、免許証の返納者が370人超…どがんかせんばいかん！！

その① 免許返納者の増加

公共交通空白地帯がチラホラ、足が無ければ暮らせない。外に出ないと身体も弱る…

その② 身近な場所に店がない

7割の行政区には買い物場所がない。高齢になると買い物が不便という声が聴かれる。

その③ 買い物のニーズが高い

ニーズ調査の結果、嬉野市塩田町の要支援者のうち6割超が買い物支援を希望！

方法： 買い物支援と介護予防の為の場所を創る。そして移動手段を準備する。

探す

移動支援は社会福祉法人へ、協力医は近くの町医者の先生へ依頼した。

創る

居場所の運営の為に有償ボランティア団体(ごましお結びの会)を立ち上げた。

くっつける

(サービス概要)

- 開設日：毎週火曜
- 利用定員：30名
- 利用対象者：
 - 要支援者
 - 総合事業対象者
 - 買い物に困った高齢者
- 利用料：200円

ショッピングセンター ぷらっと



お買い物

社会福祉法人 済昭園
社会福祉法人 たちぼな会 (令和元年10月～)



送り迎えの移動支援

社会文化会館 リバティ



介護予防体操 & レク

ごましお 結びの会
(住民ボランティア16名)



バスの乗り降り支援/介護予防活動の実施
買い物の見守り

沿革：

- 2018年4月：事業開始に向けた活動開始 (ニーズ調査、社会福祉法人等との交渉、ボランティア団体の立ち上げ 等)
- 2019年3月：試験運転開始
- 2019年5月：「ごましお健康くらぶ事業」(通所型サービスB&訪問型サービスD)としてスタート。
 - 8月：九州厚生局主催 地域包括ケア大賞 団体の部で「大賞」を受賞する。
 - 10月：移動支援団体が増え、定員を15名から30名へ増員する。利用者の中で、要支援者1名が自立へ。
 - 11月：ボランティアが14名から16名へ増える。

始めよう！ 支え合いの地域づくり in みやき町



協議体発足にむけての取り組み

H30年1月～3月準備期間

生活支援体制整備事業の進め方を町と検討。ボトムアップを意識し第2層から協議体を立ち上げる事を決定。支え合いの実践者養成のため、生活支援サポーター養成講座を実施。2月に3中学校校区で勉強会を行う。

H30年4月より生活支援体制整備事業がスタート

中原、北茂安、三根の3つの中学校校区を2層、町全体を1層とし、2層にSC3名、1層にSC1名配置。県のアドバイザー派遣事業を活用し、1年間さわやかインストラクターの江口陽介氏に伴走してもらえることに！

5回の準備会では、3校区とも同じテーマについて検討。

協議体への理解を深めてもらうため、民生委員協議会(民協)と老人クラブとの意見交換会を実施。大きな協力が得られるように！

9月には民協の協力でニーズ調査も実施。

H30年11月30日フォーラム開催

準備会での各校区の取り組みと目指す地域像を報告。第2層協議体の発足式とする。

H31年3月第1層協議体発足

協議体発足後の取り組み(第2層協議体)

みやき町の紹介

佐賀県の東部に位置し北は筑紫山脈、南は筑後平野に面している。

人口 25,669人

9,871世帯

高齢化率 33.8%

日常生活圏域 3中学校校区 (H31年4月現在)



準備会参加の呼びかけは、町報での案内、生活支援サポーターをはじめ、民生委員などの地縁組織に。だんだん参加者が...

	テーマ	中原	北茂安	三根
第1回	行政説明「助け合い支え合いの地域づくりに向けて」 講演「協議体について」江口陽介氏	43人	61人	49人
第2回	目指す地域像① (こんなまちにしたいな...)	41人	57人	41人
第3回	目指す地域像②まとめ 協議体の構成員を考える	27人	45人	27人
第4回	協議体の名前を考える① 協議体について・町の要綱説明	23人	39人	35人
第5回	協議体の名前を考える② これまでの振り返り・発表準備	17人	31人	26人
フォーラム	講演「始めよう！支え合いの地域づくり」阿部かおり氏 校区報告(目指す地域像等)・協議体発足式	155人参加		



フォーラムで校区の取り組みを報告された方を中心に協議体の世話人さんになっていただき、一緒に協議の場について打ち合わせをして協議の場を運営する事にしました。

中原校区 第2層協議体

「風のまちなかばる」

～あいさつから始まる交流の輪～

第1回

民協のニーズ調査の結果から移動の問題を考える事に。

世話人会でコミュニティーバス試乗。その気づきを参加者に報告

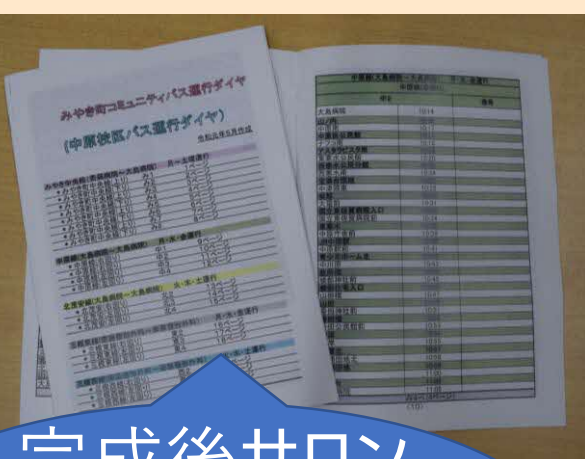
要望が多くなるのは困ってるからだよ

第3回

いろんな気づきをもとに、町とも意見交換。町作成の運行ダイヤ表を使いやすくアレンジする事に

第4回

アレンジした試作品で検討。活用方法も...



完成後サロン代表者会で紹介

第5回

これからの取り組みについて、もう一度ニーズ調査結果から考える

年取るとごみ出しは大変だよ

ドアtoドアの移動支援が いると思う

第6回

ごみ出し支援を検討。支援のために地域のつながりを強くしよう！

北茂安校区 第2層協議体

「よっていかんね北茂安」

～人に優しく支え合いができる町～

第1回

民協のニーズ調査の結果から社会資源の把握から取り組む事に。

食べる事は大事。まず食事からだね

知っていたら困りごとを減らせるよね

第3回

アンケート作成・対象店選出

第4回

配達などに関するアンケートを食料品店舗等に依頼



第5回

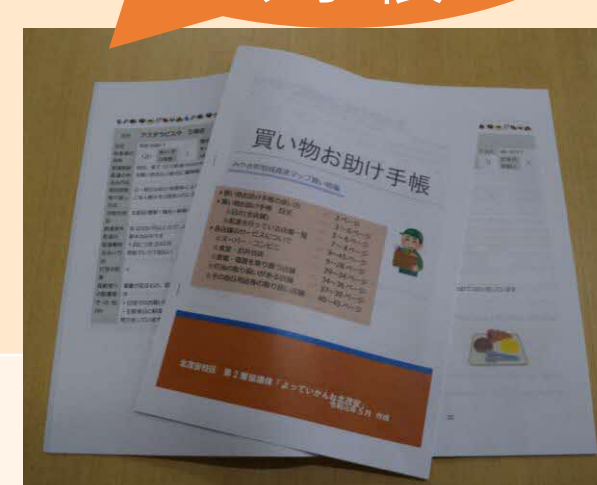
集まった情報から必要な情報を抽出

名付けて買い物お助け手帳

第6回

社会資源パンフの校正と今後の取り組みの検討。

通院などの外出に困る人の対策を考えて行こう！



三根校区 第2層協議体

「よかよか三根」

～気軽に集える場所から始めよう～

第1回

目指す地域像から気軽に集える場所作りに取り組む事に。

持丸区の古民家を始め、居場所になりそうな所を探す...

そもそも居場所って場所？人？

ふれあいサロンとの違いは？

第3回

坂口区をモデルに生活支援の仕組みづくりを検討。区の協力で全戸にニーズ調査実施。



第4回

アンケート結果より検討

第5回

ニーズの検討の続き

第6回

MAGOボタンと連携した生活支援の仕組みづくりをしていこう！

区へのお礼と報告会

こんな仕組みを作りたい

